

令和8年度 戸田市立戸田東中学校業務量管理・健康確保措置実施計画
(戸田東中校における働き方改革について)

1 現状

- ・令和7年4月～12月の本校の教職員の時間外在校等時間の平均 50時間12分
- ・令和7年度の時間外在校等時間において360時間を超す教職員の割合 83.3%

→ ほとんどの教職員が上限基準を超過している状況であり、特に部活動の大会引率や行事対応等の影響が大きい。月45時間以内の達成率は改善傾向にあるものの、年間360時間以内の割合は依然として課題が残る状況である。

・ストレスチェックの数値

○本校の総合健康リスク(83)は全国(100)市(84)平均を下回る良好な状態
(スコアは低い方が好ましい状態を示します。)

○ストレス反応について

精神的ストレス反応は強く現れていない。一方で、仕事の負担量・負担質・身体的負担度の数値が低いことから、精神的な疲労よりも身体的疲労の蓄積に注意が必要である。長時間勤務者への早期の声掛けと具体的助言が求められる。

○職場活性度について

ストレス19項目のうち、「職場活性度」として抽出した、働きがい・活気・満足度の換算点合計(15点満点)は10.6点と高水準。

本校は「働きがい」や組織的活力は高い状態にあり、これを維持しながら業務量の適正化を図る必要がある。

・生徒数650名規模、22学級体制の中規模校であり、研究委嘱校(令和7～9年度)としての取組やPBL推進、校内プレゼン発表会等の教育活動の充実が進んでいる。

・教育の質向上(Excellence)と包摂(Equity)を実現するためにも、実現可能性(Feasibility)=持続可能な働き方の確立が不可欠である。

2 目標

・時間外在校等時間の平均 月45時間以内

・土日祝日の部活動時間を除く時間外在校等時間 年360時間以内(達成率100%)

・全ての教職員にとって、働きがいがあり働きやすい職場(ウェルビーイングの確立)を目指す

・単なる時間削減ではなく、「子供と向き合う時間の確保」「授業デザインの質向上」「教師が学びのデザイナーとして本領を發揮できる環境づくり」を最終目標とする。

3 具体策

(1) 業務量管理について

- ・勤務時間の「見える化」と上限管理
 - タイムカードによる客観的把握、長時間勤務者への早期介入
 - 業務の棚卸しとタスク配分の最適化
- ・校務 DX の推進
 - 校務支援システム活用、ペーパーレス化、資料共有化
 - 採点支援・生成 AI 活用による業務効率化
- ・行事やその準備の見直し
 - 前例踏襲型からの脱却、目的の再定義
 - 生徒主体化により教員負担の適正化
- ・勤務の割振の効果的活用
 - メリハリある勤務設計
 - 振替休暇の確実な取得
- ・休暇等の確実な取得
 - 年休取得促進
 - 学校閉庁日(8月11日～16日、11月14日)の確実な実施
- ・部活動の活動時間の工夫
 - 複数顧問制の推進
 - 地域移行の検討
 - 活動時間の適正化
- ・定時退勤デー・ノー部活デーの活用
- ・業務のスリム化
 - 調査項目の精選
 - 研修の精選
 - 校務分掌の再編成と平準化
- ・その他
 - 「余白こそ戦略」の考えに基づく時間設計
 - 会議の短縮・オンライン活用

(2) 健康確保措置について

- ・業務量の軽減
 - 校務分掌の調整
 - 日課表の見直しによる業務整理
 - 市費職員(SSS等)の活用
 - 専門スタッフとの連携強化

- ・面談、相談体制の確立
 - 教職員相談窓口の周知
 - 高ストレス者への面接指導勸奨
 - 産業医・カウンセラーとの連携
 - 衛生委員会の確実な開催
 - 風通しの良い職員室づくり
- ・管理職による見届け（見る、聞く、繋ぐ）
 - 定期的ヒアリング
 - 長時間勤務者への個別助言
 - 早期支援体制の確立

(3) その他

- ・保護者・地域の理解促進
 - 学校運営協議会の活用
 - 働き方改革内容のHP公表
 - 留守番電話（時間外）の周知
 - 学校閉庁日の理解促進

・「チームとしての学校」の推進

- 教育委員会 × 学校 × 保護者 × 地域の協働
- 働き方改革への理解と支援の醸成

(4 結果)

- ・令和〇年〇月の時間外在校等時間
- ・ストレスチェックの数値
- ・学校評価の数値
- ・働きがいに関するアンケート結果

PDCAにより進捗を公表し、次年度改善へ反映する。